

審査の結果の要旨

氏名 山川 貴菜

本研究は非侵襲的な MRI、MRCP を用いた retrospective case control study にて膵炎や Chronic nonpathological pancreatic hyperenzymemia における膵管破格や膵実質の形態変化の意義、関連を検討したものである。これにより下記の結果を得ている。

1. 稀な副膵管の破格である Ansa pancreatica は、臨床経験上膵炎発症の危険因子と推測されてきたが、これを示した case control study はなかった。本研究は case control study により、Ansa pancreatica の頻度は健常群に比し再発性膵炎群で有意に多いことを明らかにし、この破格は再発性膵炎の原因となることを示した。
2. 慢性的に血中膵アミラーゼやリパーゼの上昇した状態である Chronic nonpathological pancreatic hyperenzymemia と膵管破格の関連については、これまで十分に検討が行われていなかった。本研究は MRCP を用いた case control study により、Chronic nonpathological pancreatic hyperenzymemia と膵管癒合不全、蛇行主膵管との間に関連を示し、これらの破格は本病態の原因となると考えられた。
3. 慢性アルコール性膵炎で膵実質萎縮が生じることはよく知られているが、その形態的特徴について検討した先行文献はない。今回健常群と慢性膵炎群の比較により、慢性アルコール性膵炎は膵体部、膵尾部の萎縮と関連し、膵頭部の萎縮をきたさないことが明らかになった。

以上、本論文は膵管破格ないし膵実質の形態と各膵疾患との関連につき、新たな知見を明らかにし、膵炎診療におけるリスク予測や、膵疾患のメカニズム解明に貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。